

2023年4月16日

愛媛県柔道協会御一同様

カンボジア柔道強化支援活動への暖かい御援助へのお礼

拝啓、心地良い春を迎えてお元気でお過ごしのことと拝察致します。

昨年12月暮れから3月10日迄の2カ月半の間、カンボジア柔道強化選手団を貴地松山で大変暖かくご支援頂き厚くお礼申し上げます。選手団は一様に松山の皆様方がかくも暖かく迎えて下さった事に驚き、厚く感謝致しております。

お蔭様で一同心身共に見違える程遅しくなり、帰国後も濱田初幸、中村美里両先生のご指導の下、5月13日からのSEAGames2023でのメダル獲得を目指して厳しい稽古に打ち込んでおります。現地の中間報告を同封いたしますのでご参照頂ければ幸いです。

改めて厚く礼申し上げますと共に、今後共カンボジア柔道の若い仲間達への応援、御支援を宜しくお願い申し上げます。

敬具

カンボジア柔道応援団会長 小川郷太郎

(元駐カンボジア日本国大使、講道館六段)

## カンボジア柔道ナショナルチームの現況など（報告）

2023.3.23. プノンペンにて

小川郷太郎

### 【1. 概況】

3月16日朝、濱田先生とプノンペンに戻った。21日朝には中村美里先生が到着、両先生による指導が22日から再開し、この態勢で強化指導が5月のSGの終了まで続く。いよいよ本番に向けた追い込みである。プノンペンはジリジリと暑くなり、日中は35度から40度ぐらいになる。先生の柔道衣も汗でびしょりである。

当地駐在の山崎麻美さんにはいつも通り懇切丁寧に支援をしていただいている。

SG開会まであと40日余りとなった。大会準備はずいぶん遅れているように見えるが、街には随所に大きなポスターや表示が出てきて、大会関係のインフラ建設工事などと相俟って市内は雰囲気盛り上がりつつある。スポーツ施設では練習する他競技の選手の姿が多くなった。

濱田先生は松山合宿後も変わらない情熱を傾けて選手を叱咤激励しつつ、基本的な技能に加え、試合を想定した実戦的訓練、すなわち相手との組み方、立技、寝技における連続した体の動かし方、精神の持ち方まで細かく指導されている。怪我をしている選手が3～4名いるが、先生はそのことに留意しながらもそれを理由に弱気を見せたり、力を抜くことを許さない。先生が繰り返し強調する「ワンチームで」という掛け声がだんだん浸透してきて団結力が強まっている。選手たちは強い声を出して自分や仲間を鼓舞することもだんだん出来るようになった。

選手たちは厳しい指導方針の意義を理解するようになっており、松山で培われた親睦などを通じて先生との信頼関係は（まだ目つきに真剣さが出ていない一部の男子選手を別として）確固としたものになっている。中村先生も飾り気のない気さくな性格で濱田・中村両先生のコンビも最初から良好であることも心強い。

ウクライナ及び日本からの外国籍選手もカンボジア側の強い要望もあって、カンボジア選手がいないカテゴリーでのカンボジア選手としての出場準備が着々と進んでいる。ウクライナの2名に加え、日本から、宇野（男子-73kg級）、安松（女子-70kg級）、柳葉（現地在住、女子-52kg級、目下減量で激戦中）の3名が参加予定。濱田先生も積極的にこれら選手を支援している。

濱田先生は、私が一時帰国する23日の午後道場で選手たちに、我々「応援団」や松山の人々、その他大勢の人たちがカンボジア選手を応援してくれていることを改めて説明しそれに応える努力の必要性を改めて強調し、マリーがそれを逐一通訳して選手たちに伝えてくれた。



## 【2. 所見】

寝技の細部にわたる先生の繰り返しの指導により、まだまだ不十分であるが、だんだん抑え方や絞め技のコツ、相手の動きに対応しての動きなどを覚え始めているように見えた。私も先日軽量女子のリリーと寝技乱取りをしてみたが、想像以上に力も強く絞め技もよく効いていたので驚いた。

今回の観察でとくに目についたのは、リリーの顕著な上達だ。濱田先生の考えや方針を理解し真剣に学ぼうとする姿勢が強まっていて、積極性、攻撃性、忍耐力、精神力、持続力が増している。目つきがそれを物語っていて、苦しくても必死に乗り越えようとする精神の強まりが感じられる。いわば先生が吹き込まんとしている「闘魂」のようなものがこの小柄で柔和な女子選手の顔や所作に現れてきている。SG までさらに強くなりそうで大いに期待が持てる。他の選手もこのような闘争心が出てくれば、これはカンボジア柔道にとって「精神革命」の萌芽になるかもしれない。他方で松山合宿に参加した2名の男子選手（パイユーとソクチア）は週末の稽古を無断欠席して先生の激怒を買い「追放」を宣告された。その後稽古に復帰したが、目つきが弱い。早急な闘魂激発を祈る。

形の技術も向上している。マリーが右肩を痛めているが一所懸命稽古に励んでいる。柔の形のマリー・リリー組は確実に上達している。

## 【3. CAMSOC 委員長との協議】

超多忙で連絡をとったり会談を実現することが至難である Vath Chamroeun 委員長 (VC) と3月22日にようやく会談が実現した。当方より討議事項を具体的に列挙し資料も整えて臨んだが、時間が限られていたので、討議事項のリストに沿って極く簡潔に説明したところ、VC はそれぞれの点を基本的に了承した。用意した細部の資料はピボルが財務担当部署に提示し処理することとなった。これにより、応援団が立て替えている金額も早晚支払われることが期待される。

## 【4. 教育青少年スポーツ大臣との会談】

22日午前カンボジア柔道連盟を所管する教育相と会談した。前回同大臣は海外出張中であつたが、自ら空手を習い柔道にも関心のある旧知の大臣との今回の会談は、良い雰囲気が進み一定の効果はあつたかと思う。事前に送った資料も読んでいたようで、当方がかなり詳細にカンボジア柔道支援の状況やこれまでの成果を説明したことに熱心に耳を傾けて感謝の意を表した。

当方から、カンボジア柔道連盟の予算があまりにも少なく選手の育成や組織運営に必要な人材も確保できない現状を説明したことに対し、予算の少なさを弁解しつつ将来増額に努力したい旨述べた。当方より重ねて、SG 後に予算増額がなければせっかく今回進展しているカンボジア柔道強化の成果が霧消する危険を指摘し、近い将来の予算強化について機会があればフンセン首相にも要請したいと付言しておいた。



以上